

記事内容

- ☆第22回地方委員会
- ☆第22回地方委員会 会長挨拶(要旨)
- ☆新任役員紹介
- ☆退任役員紹介
- ☆第22回地方委員会フォト
- ☆県関係部局との意見交換/組合役員教育プログラム修了証書授与式
- ☆ネット21「パソコン贈呈式」/12月の行動日程
- ☆あけぼのビル

希望の持てる持続可能な社会をめざして

～第22回地方委員会開催～



連合埼玉は11月19日(木)、第22回地方委員会をときわ会館にて、役員・地方委員・傍聴など、約100名の参加のもと開催しました。

今回の地方委員会は、新型コロナウイルス感染症への対策をはかりながら、会場の招集人員も地方委員会の成立要件を満たす役員・地方委員のみでの開催としました。したがって、例年ご臨席頂いている来賓の参列は要請せず、埼玉県の大野知事からのメッセージ紹介のみとしました。また、従来招集していた特別地方委員などはオンライン会議システムで8名に参加していただきました。

地方委員会では第16回定期大会で決定した2020～2021年度運動方針にもとづき、中間総括となる2020年度活動報告・会計報告、2021年度活動計画・予算、役員の一部交代について審議され、全ての議案が満場一致にて確認されました。その後、「第22回地方委員会アピール」が採択され、地方委員会を閉会しました。

連合埼玉第22回地方委員会での
報告事項及び議事内容

【各種報告】

- 1)2020年度 活動経過報告
- 2)2020年度 会計報告
- 3)2020年度 会計監査報告
- 4)特別報告
 - ①2020年度「埼玉県労働委員会」報告
 - ②2020年度「埼玉地方最低賃金審議会」報告

【議事】

- 第1号議案 2021年度 活動計画(案)について
- 第2号議案 2021年度 予算(案)について
- 第3号議案 役員の一部交代について

【その他】

- 第22回地方委員会アピールの採択

連合埼玉第22回地方委員会 挨拶要旨

会長 近藤 嘉



近藤 嘉会長

日頃より連合埼玉の活動に対しまして、ご理解・ご協力をいただいておりますこと、厚く御礼を申し上げます。

連合埼玉は昨年の第16回定期大会において、結成30周年を機に「働くことを軸とする安心社会—まもる・つなぐ・創り出す—」運動に向け、「持続可能性」と「包摂」の理念をこれまで以上に重視していくことを強調し、活動をスタートさせました。しかし、今年に入り、新型コロナウイルスの感染拡大が、これまで当たり前だったという日常を奪い去り、日本社会の様々な脆弱性を浮き彫りにするなど、雇用・くらしの様相を一変させました。私たち労働組合も、運動を進める上で感染状況を見極めながら活動の自粛や労働相談への対応強化、県に対する緊急政策要請など、工夫を凝らしながらの活動をおこなってきました。

コロナ禍によって引き起こされた雇用・生活・経済の課題は、「連合ビジョン」で掲げた持続可能性と包摂を基底とした社会像や「まもる・つなぐ・創り出す」という運動の重要性を再認識させるものです。働く仲間の分断や孤立を生じさせないよう、連合運動の更なる深化を追求するとともに、労働組合としての社会的役割を果たすべく、経済団体、行政、NPOや協同組合など、地域の多様な活動主体との結節点となりながら、すべての働く者・生活者の雇用と生活を守り、地域社会における諸課題の克服に向け、活動を展開していきます。

次に、働き方改革についてですが、2019年4月より働き方改革関連法が順次施行され、2021年4月からは、「同一労働同一賃金」が中小企業に対して適用になります。しかしながら、10月28日埼玉労働局公表の「長時間労働が疑われる事業場に対する監督指導結果」によると、対象となった事業場の58.5%で違法な時間外労働があるなど、長時間労働の実態が報告されました。この結果を「対岸の火事」とは思わずに自分の職場に置き換え、労働組合とし

て会社との共有や確認とチェックをお願い致します。

また、新型コロナウイルス感染拡大により、テレワークを導入する職場が急激に増加しました。連合の「テレワークに関する調査2020」では、長時間労働や時間外・休日労働などにつながったとの回答が寄せられています。今後、更なるデジタル化が加速していく中において、労働条件や労務管理、情報セキュリティ専門人材の確保、コミュニケーションの取り方、安全・メンタルなど、様々な領域における適切なルールの整備を労使でしっかり議論していき、社会全体に波及させていきたいと思っております。

次に、政治についてですが、9月中旬に菅内閣がスタートし、内閣支持率は62%と高い支持率でした。基本は安倍政権の踏襲ということで今臨時国会の国会運営についても相変わらずの光景が繰り返されているという感想です。2012年末に始まった第二次安倍政権発足以降、森友・加計学園問題をはじめとする疑惑に対し、その間の国会会期約1700日間に、総理や閣僚、官僚などを含め、6500回以上の答弁拒否をしているとのこと。今臨時国会でも、学術会議の任命拒否に対し、答弁拒否をし続けているということでは、すでに一強政治の驕りや緩みが表れており、日本政治の劣化、議会制民主主義の危機と言っても過言ではありません。

一方で、野党は新たに大きな一つの塊として、9月15日に新たに理念を共有する新党として「立憲民主党」が結党されました。埼玉県も立憲民主党 埼玉県総支部連合会の設立大会が開催され、緊張感のある二大政党的政治体制の構築に向けた新しい一歩を踏み出しました。しかし、現状は私達が思い描いていた姿になっていないことから、今後も志を同じくする仲間と引き続き連携をはかり、国民に信頼される選択肢となれるよう、諦めることなく働きかけていきます。

そして、衆議院議員選挙の施行日は流動的ではありますが、埼玉県では立憲民主党と国民民主党で候補者選定の棲み分けができており、今後、推薦確認、政策協定を結んでいきます。いつ総選挙になっても良いように、家族を含む組合員への周知を含め、全候補予定者の小選挙区での当選に向け、連合埼玉の総力を結集し全力で取り組んでいきます。

最後に、新型コロナウイルス感染症の状況は、まだまだ予断を許さない状況です。連合埼玉結成以来、経験したことのない環境下での取り組みが続きます。私たち連合埼玉が踏ん張らなければ社会の脆弱性を克服していくことはできないという信念のもと、希望の持てる持続可能な社会の実現をめざし、構成組織・加盟組合・地域協議会の総力を結集し、全力で取り組みを前に進めていきましょう。

新任役員紹介

①産別・単組 ②抱負

副会長 高井 哲郎(たかいてつろう)

- ①UAゼンセン埼玉県支部
- ②連合埼玉に所属する組合員の生活向上に少しでも役に立てようがんばります。また、中小労組、短時間組合員が多く加盟する産別として、その声がしっかりと届くように取り組みたいと思います。



副会長 竹内 秀之(たけうちひでゆき)

- ①電機連合埼玉地方協議会
富士電機労働組合吹上支部
- ②昨年の第16回定期大会まで3年間執行委員としてお世話になっておりましたが、今年度より副会長として連合運動に携わることになりました。埼玉県内で働く仲間が安心して働き、安心して暮らせるため、労働条件向上や労働環境改善をはじめ「働くことを軸とする安心社会」の実現をめざし、連合埼玉構成組織・単組のみなさんとともに精一杯尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



副会長 沼尻 俊彦(ぬまじりとしひこ)

- ①自治労埼玉県本部
越谷市職員組合
- ②副会長という大任に就くことに大変なプレッシャーを感じています。公務という職場は、労働基本権も団結権と団体交渉権の一部しか有していない他産別と違う特殊な産別ですが皆さんと同じ労働者であることに変わりありません。政策・制度に関しては得意分野なのでその利点を生かし、連合埼玉の皆さんと頑張っていけたらと思いますのでよろしくお願いいたします。



執行委員 江郷 俊太(えごうしゅんた)

- ①JEC連合埼玉地連
富士フィルム労働組合埼玉支部
- ②新型コロナウイルス感染拡大に伴う、非常時な社会情勢の中、執行委員という大役を仰せつかることに身の引き締まる思いです。埼玉県で働く皆様のために、連合埼玉のめざす社会の実現に向け、活動していきます。どうぞよろしくお願いいたします。



執行委員 宇田川 知克(うだがわともかつ)

- ①国公総連埼玉
全農林労働組合埼玉分会
- ②度重なる自然災害や新型コロナウイルス第3波が襲来している昨今、国民が安心して暮らせる社会の構築に向け、良質な公共サービスを安定的に提供するため、日夜業務をおこなっている組合員のためにも労働条件の維持改善や職場環境の整備を求め、連合の旗の下で運動を進めていきます。



執行委員 千葉 直樹(ちばなおき)

- ①JR総連埼玉県協議会
JR東労組
- ②新しい生活様式の中で、働く者の立場に立った運動を創りだしていくために、微力ながら執行委員の一員として活動していきます。



退任役員紹介

①在任期間 ②産別・単組 ③ひとこと

前副会長 牧田 晴充(まきた はるみち)

- ①2013年11月～ 7年間
- ②UAゼンセン埼玉県支部
- ③この度、組織事情により役員を退任させていただくことになりました。あっという間の7年間でございましたが、その間、連合埼玉事務局や産別組織の皆様を支えられ、楽しく有意義に活動させていただくことができました。各組織の皆様のさらなるご活躍を心より祈念申し上げます。



前副会長 土屋 幸一(つちや こういち)

- ①2019年11月～ 1年間
- ②電機連合埼玉地方協議会
サンケン電気労働組合
- ③連合埼玉副会長として携わり、他産別の加盟組合員と出会い支えていただき、成長を実感しているところです。コロナ禍の影響で予定されていた活動が思うようにできなかったのは残念に思いますが、この労働運動の経験を活かし、新たなステージへ生かせればと考えています。短い期間でしたが、さまざまな人達にお世話になり、ありがとうございました。



前副会長 持田 明彦(もちだ あきひこ)

- ①2013年11月～ 7年間
- ②自治労埼玉県本部
- ③執行委員2年、副会長7年計9年間、連合埼玉の構成組織、事務局の皆さんにはたいへんお世話になりました。小さな自治体単組から県本部委員長になり、単組活動中心から、県内の多くの仲間と知り合い、一緒に活動できたことはとても貴重な経験となりました。第22回地方委員会で退任しますが、働く仲間の声を大切にする運動は続けていきたいと考えています。連合埼玉のさらなる発展を祈念いたします。



前執行委員 藤田 広大(ふじた こうだい)

- ①2017年11月～ 3年間
- ②JEC連合埼玉地連
富士フィルム労働組合埼玉支部
- ③連合埼玉が掲げる「運動の3本柱」を基軸に、各産別役員の皆様と各種活動に取り組み、多くの大切な仲間と出会い、私自身を成長させてくれた連合埼玉には感謝しかありません。執行委員として務めた3年間、本当にありがとうございました。最後になりますが、連合埼玉と構成組織の益々のご活躍を祈念しております。



前執行委員 齋藤 智之(さいとう ともゆき)

- ①2016年11月～ 4年間
- ②JR総連埼玉県協議会
JR東労組
- ③短い期間でしたが、皆様のおかげで「井の中の蛙」にならずに見聞を広めることができました。学んだことを生かして、連合運動の前進と組織の強化拡大に微力ながら努めてまいります。ありがとうございました。



前執行委員 高畠 栄(たかはた さかえ)

- ①2016年11月～ 4年間
- ②国公総連埼玉
全農林労働組合埼玉分会
- ③公務員労働組合の立場で連合埼玉の執行委員として諸活動に参加させていただき、多くの民間労働組合の仲間、国民が安心して生活できる公務・公共サービスの確立などにご理解いただき感謝申し上げます。また、政策・制度要求や春闘の街頭宣伝活動などの国民運動も貴重な経験となりました。ありがとうございました。



第22回地方委員会フォト



開会の挨拶をする小林健一副会長



議長 須永歩美地方委員(UAゼンセン)
副議長 竹本俊明地方委員(電機連合)



書記 梶原康智さん(青年委員会)
藤井久恵さん(女性委員会)



第22回地方委員会アピールを読み上げる岡勇介執行委員



閉会の挨拶をする谷内聡副会長

近藤会長 テレビ埼玉「新春賀詞特別番組」出演のお知らせ



2020年1月放送時の近藤会長

近藤 嘉 会長出演の「新春賀詞特別番組」が
下記日程で放送されます。
ぜひ、ご覧ください。

放送日:2021年1月2日(土)
11:55~12:00

放送局:テレ玉(3ch)



2020年度 埼玉県に対する政策・制度要請に伴う 関係部局との意見交換を実施!

11月9日(月)13時30分から、あけぼのビル501会議室において、政策・制度要請書(9分野26項目)の内容について、埼玉県庁の関係部局との意見交換を実施しました。

冒頭、埼玉県を代表して産業労働部中山雇用労働局長から、「このような時代にこそ、働くことを軸とする安心社会の実現をめざしている連合埼玉の役割が重要であり、県としては連合埼玉をはじめ関係団体の皆様と連携をしながら、あらゆる人に居場所があり、活躍ができる、安心して暮らせる社会、すなわち日本一暮らしやすい埼玉の実現をめざし、取り組みを進めてまいります。また、9月16日の県知事への要請では、幅広い視点によるご意見をいただき感謝いたします。県財政は非常に厳しい状況にありますが、現段階においてできる限りの回答をさせていただきます。たいへん限られた時間ではあるものの、実りある話し合いとなるようご協力をお願いしたい」との挨拶が述べられました。

続いて、連合埼玉を代表して政策・制度委員会 沼尻委員長より、「私たちは働くことを軸とする安心社会の実現に向けて取り組んでいます。そのような中、雇用・労働政策、福祉・社会保障政策など安心して生活できる、そ

して働き続けることのできる社会、人と人とが信頼でつながる地域社会の確立に向けて、この要請書を策定しました。なお、勤労者・生活者の視点で取りまとめをおこないましたので、是非とも勤労県民の総意として受け止めていただき、積極的な検討と回答をお願いしたい」との挨拶が述べられました。

その後の意見交換では、県からの回答に対して我々の考えや要請に至った経過などを伝えるなど、有意義な意見交換の場となりました。

なお、正式な回答については2021年3月末を予定しており、その内容について、改めて評価・分析をおこない、次年度の取り組みに反映していきます。



埼玉県を代表し挨拶する
中山雇用労働局長



連合埼玉を代表し挨拶する
沼尻委員長

組合員とのコミュニケーションは重要

組合役員教育プログラム修了証書授与式

10月30日(金)あけぼのビル501会議室において、組合役員教育プログラム修了証書授与式を開催しました。

連合埼玉では、労働組合役員向けの教育プログラムを基礎講座(8講座)、実務講座(6講座)、スキルアップ(6講座)と3つの分野に分け、全20講座を毎年開催しています。しかし、本年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で基礎講座のみの開催となり、8講座を全て受講した5名のうち3名が出席して修了証書を授与しました。

冒頭、組合役員教育プログラム運営委員長の金谷副会長より、「みなさんは組合役員としての基礎的な学びを終えた。引き続き実務講座、さらにはスキルアップ講座をめざしてほしい」と挨拶がありました。



会場の様子



金谷副会長

組合役員教育プログラム修了証書授与!



基礎講座を修了した受講生



近藤会長

続いて「修了証書授与にあたって」と題し、近藤会長から「労働組合は組合員とその家族のためにある。日頃から組合員とのコミュニケーションを大切にすることで、会社は重要施策を判断する際、組合に情報を求めるようになる。会社から信頼を得ると組合員はさらに相談にくる。つまり活動の原点は職場にあることを忘れないでほしい」と自身の体験に基づく講話をいただきました。

その後、近藤会長より修了者一人ひとりに修了書が手渡され、修了者からは、「違う職場の人と出会い交流することで、いろいろな働き方を知った」「組合役員になり、コミュニケーションの重要性を実感している」と感想と報告があり、修了証書授与式を閉会しました。

ネットワークSAITAMA21運動

15団体に対してパソコン贈呈を!

ネット21運動では、「NPO応援・物品助成プログラム」の取り組みの一つとして、毎年、NPO団体などに対してパソコン贈呈をおこなってきました。

今年度は、8月1日から9月30日の期間で受付をおこなった結果、35団体からの応募があり、運営委員会による厳正な審査の結果、右表の15団体への贈呈を決定いたしました。(2007年以降累計147台寄贈)

パソコン贈呈式については、これまで連合埼玉の定期大会・地方委員会の中で実施していましたが、昨今の新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、今年度は11月17日(火)に、「さいたま市民会館うらわ」にて実施しました。



寄贈先団体との記念写真

【贈呈団体一覧】

- ①NPO法人熊谷の環境を考える連絡協議会(熊谷市)
- ②NPO法人地域ごと共育ステーションハッピーサークルサイクル(春日部市)
- ③NPO法人障害者の職場参加をすすめる会(越谷市)
- ④合成洗剤をやめていのちと自然を守る埼玉連絡会(さいたま市)
- ⑤NPO法人フードバンク埼玉(さいたま市)
- ⑥フードパントリー大宮運営ユニット(さいたま市)
- ⑦志木介護する人を支える会(志木市)
- ⑧認定NPO法人森のECHICA(秩父市)
- ⑨NPO法人子育て支援ワーカーズコレクティブみるく(越谷市)
- ⑩NPO法人在宅福祉サービス たすけあい日高(日高市)
- ⑪NPO法人さいたまNPOセンター(さいたま市)
- ⑫NPO法人大人の学校(さいたま市)
- ⑬NPO法人子ども広場草加おやこ劇場(草加市)
- ⑭NPO法人志木総合型地域スポーツ・レクリエーションクラブ(志木市)
- ⑮NPO法人のらんど(さいたま市)

現在予定される12月の日程表です

12月	行事等	
	連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日 火		連合「第84回中央委員会」(10:00~13:00・WEB)
2日 水	官公労部門連絡会「第2回幹事会」(18:30~・自治労埼玉県本部会議室)	
3日 木		関東ブロック①2021春季生活闘争会議(13:30~)②第31回定期総会(15:30~・ラングウッド・WEB開催)
4日 金		①連合「第4回全国最低賃金対策会議」(10:00~・WEB開催) ②県央地域協議会「第22回地協委員会」(18:00~・UDトラック労働組合) ③朝霞・東入間地域協議会「幹事会」(18:30~・ピアザふじみ)
5日 土		
6日 日		
7日 月		
8日 火	①第1回四役・執行委員会(10:00~・13:00~・ときわ会館) ②全国一斉集中労働相談ホットライン(10:00~19:00)	川口・戸田・蕨地域協議会「第3回幹事会」(18:30~・友愛センター)
9日 水	全国一斉集中労働相談ホットライン(10:00~19:00)	
10日 木		
11日 金		比企地域協議会「第32回地協委員会」(18:00~・紫雲閣)
12日 土		
13日 日		
14日 月		
15日 火		秩父地域協議会「第3回幹事会」(18:00~・勤労者福祉センター)
16日 水		朝霞・東入間地域協議会「第5回地協委員会」(18:45~・ピアザふじみ)
17日 木		さいたま市地域協議会「第11回幹事会」(18:30~・浦和コミュニティセンター)
18日 金		熊谷・深谷・寄居地域協議会「幹事会」
19日 土		
20日 日		
21日 月		北埼玉地域協議会「合同幹事会」(18:30~・羽生市民プラザ)
22日 火	ネット21「第5回運営委員会」(10:00~・あけぼのビル)	
23日 水		
24日 木		
25日 金		
26日 土		
27日 日		
28日 月		
29日 火		
30日 水		
31日 木		

年末年始休暇



<はじめに>

師走を迎え、今年もあと1カ月となりました。構成組織、加盟組合の組合員の皆さんは、この1年間、誰もが想像もしていなかった新型コロナウイルス感染症の影響により、自分たちの暮らしを、自分たちの仕事や職場を、そして場合によっては命まで、大きく影響を受けた年ではなかったかと思います。

そして、それぞれの構成組織や加盟組合の組織も、所属する企業や組織の状況により、休業(帰休)や構造改革などの雇用面への対応や、一方でエッセンシャルワーカーと呼ばれるような生活や社会を支える仕事(インフラ事業関連、食品関連、医療・介護など)においては、感染予防への支援など、それぞれの構成組織で、これまで経験したことのない取り組みをおこなっていると思います。

また、労働組合の活動としては、三密の回避、マスクの着用をはじめとする衛生管理、テレワークなど、人と人の繋がりを大事にする活動が思うようにできず、これまでの活動方法が通用しない事態に直面し、それぞれの組織で、活動に苦心されていると思います。

連合埼玉においても、結成30年を迎えた節目の年に、メーデーをはじめ、当初予定していた活動を中止せざるを得ない状況や、オンラインを活用した会議、活動の実施など、これまでの取り組みを大きく見直す必要がある状況になっています。

このような中で、11月19日(木)に開催した第22回地方委員会では、今年の1年間を総括し、次年度に向けての運動方針の補強として、「コロナ禍を乗り越えるためのこれからの活動」の考え方をまとめ、新たな視点のもと、2021年度の運動方針を確認しました。

<大きな節目の年>

本来であれば、連合埼玉結成30周年を迎え、大きな節目の年として、昨年の第16回定期大会において確認した向こう2年間の活動を推進する年でした。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の中で、「感染予防」の観点から、活動を中止、変更し、これまでの運動の前提が通用しないほど、記憶に残る大きな節目の年となりました。

あらためて、連合結成30周年の新たなビジョン「働くことを軸とする安心社会～まもる・つなぐ・創り出す～」の実現に向けて、運動の再構築を強く打ち出したキーワード「まもる・つなぐ・創り出す」取り組みの原点は、「それぞれの現場から始まる」ことの重要性和、そのこと自体が「労働組合、連合の強み」でもあるといったことを気づかされました。

<「まもる」思い>

「まもる」ことは、「働く仲間一人ひとりをまもる」ことに他なりません。そのためには、一人ひとりの仲間に焦点をあて、集団的労使関係の力を活用したり、働く者のためのワークルールを整備したり、セーフティネットの構築や労働教育で一人ひとりをまもることができます。今回の新型コロナウイルス感染症において、働く仲間がさまざまな現場で困っている。その困っている仲間を「まもる」ことの重要性和「まもる」ことができる強みがあることを気づかされました。

<「つなぐ」思い>

「つなぐ」ことは、「働く仲間・地域社会をつなぐ」ことです。そのためには、働く仲間をつなぐことや、労働組合が結節点となって、地域社会をつなぎ、そして安心社会を世界へつなぐことができます。今回の新型コロナウイルス感染症において、人と人との接触を避けることが日常化する中で、これまで以上に感染予防対策をしながら働く仲間をつなぐ、地域社会をつないでいくことの重要性和、働く仲間や地域を「つなぐ」ことができる強みがあることを気づかされました。

<「創り出す」思い>

「創り出す」ことは、「社会・経済の新たな活力を創り出す」ことです。そのためには、現場の一人ひとりの働きがい・生きがいを生み出し、働く者の立場から未来を切り拓き、新たな生産性運動で社会課題を解決しながら、誰一人取り残されることのない社会を実現することが必要です。今回の新型コロナウイルス感染症の影響により、私たちの社会や経済が大きな影響を受けました。このような環境の変化の中で、未来に向かって切り開いていく力や社会問題を解決していく力を、私たちが創り出すことの重要性和、私たちが新たな活力を「創り出す」ことができる強みがあることに気づかされました。



本庄早稲田の杜ミュージアム「笑う埴輪」

<「笑う門には福来る」>

埼玉県本庄市の古墳から、全国的にも珍しい笑う表情を持つ埴輪が出土されています。本来、埴輪は古墳への防御や攻撃といった役割から、悪霊や災いの侵入を防ぐ役割などがあると言われていました。その中であって、「笑いの力で打ち払ってしまえ」という願いが込められているのかもしれない。

今年、1年間、新型コロナウイルス感染症の中で、気持ちが不安になることが多い年だったと思います。ぜひ、「笑う埴輪」を見ながら、古来より「笑いで」「禍(わざわい)」を吹き飛ばし、「福」をもたらすことを思いながら、この一年間を振り返り来年へ思いを馳せてみたい。

2020.11.20